

【長野県自転車活用推進計画 施策進捗状況及び分野別評価】

分野・目標	施策	【総括・今後の対応】	自転車活用推進計画期間				
			R1の実績	R2	R3	R4	
全般	○ 関連施策の 総合的・計画的な推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画に基づく取組については、保険加入率の向上等、一定の成果があった。</li> <li>・また、新型コロナウイルス感染症拡大を踏まえた対応や高齢者の死亡事故増への対応等、新たな課題も生じており、追加的な対応が必要。</li> <li>・今後とも、新たな課題への対応を含め、関係部局、市町村、関係団体と連携し、計画達成に向けて取り組む。</li> </ul>	第1回自転車活用推進計画ネットワーク会議の開催（R1.8.5） 活用推進計画のフォローアップと見直し  自転車活用推進体制の構築（市町村・関係団体等との連携）		継続		
安全・安心  「すべての人が自転車を安全に利用する信州」の実現  ○県民に対し、交通安全の教育、啓発を行い、自転車損害賠償保険等への加入を促進します。   【自転車安全・安心PRキャラクター 風野りん（イラスト/雨宮理真）を用いたポスター】	1 学校・事業所における交通安全教育の推進	<b>【総括】</b> ○小中学校、高校における安全教育・啓発は概ね実施できたほか、自転車事故発生件数は928件→772件と減少し、目標（780件）を達成した。 ○自転車損害賠償保険等への加入率が28.8%→53.4%まで上昇し、一定の成果が出ている。  <b>【今後の対応】</b> ○最も多い高校生の通学時の事故を減らすため、交通マナー啓発チラシを配布するほか、通学路での指導や体験型の交通安全教育（スクアードストリート）を継続して実施する。 ○高齢者の自転車単独死亡事故が増加していることから、ヘルメット着用に向けた啓発を強化する。 ○日本損害保険協会や自転車販売店協会等と連携し、自転車損害賠償保険等への加入を促進する。	県政出前講座や各種講習会等における事業所向け交通安全教室の実施（38回） 教職員を対象とする研修会の実施 学校における交通安全教育の推進（交通安全教室実施率：県立中学・高校100%、市町村立小学校100%、市町村立中学校92.9%）		継続・拡大 ※学校における交通安全教室は実施率100%を目指す		
	2 自転車通行ルールを守る県民意識の高揚		自転車安全・安心PRキャラクター「風野りん」を活用した広報クイズ形式の自転車安全ルールブック6万部を小学校1～3年生全員へ配布 外国人向け安全利用チラシ（英語・中国語版）2万3千枚を自転車貸付事業者や道の駅などゲートステーションへ配布 交通マナー遵守を呼びかけるチラシ5万枚を新高校・中学1年生全員へ配布 通学路を含め自転車運転者の交通違反に対する指導警告を2,664回実施  携帯しやすい名刺サイズのマナー啓発カード3万枚を街頭配布		継続・拡大		
	3 安全性の高い自転車の普及促進		自転車貸付事業者登録制度設計・運用（10店舗（9事業者）が登録 R1.2.3時点）		継続・拡大	自転車販売店等と協働した点検整備の重要性等に関する集中的な広報	
	4 災害時における自転車活用の推進		令和元年度東日本台風（台風第19号）災害において災害ボランティアの交通手段として活用（R1.10.18-10.22 1日100台以上）			災害発生時における有効な交通手段として、一層の活用を図る	
	(条例) 自転車損害賠償保険等への加入促進		チラシ13万枚を市町村と連携し各戸回覧版へ挿入し配布 ポスター7千枚を保険取扱事業者やコンビニ等へ配布 加入率53.4%（R1.12 県政モニターアンケート調査）			継続・拡大	
利用環境整備  「自転車を利用するライフスタイルに合ったまちづくり」  ○日常生活やレジャー等で自転車を安全かつ快適に活用できるよう、通行空間や駐輪場の整備を推進します。   【Japan Alps Cycling ブランドのロゴマークを活用した道路標識版】	5 自転車通行空間のネットワーク化及び広域的な整備推進	<b>【総括】</b> ○自転車通行空間（※）の整備は、自転車道等延長・リニューアルとして令和元年に約16.9kmを整備し、概ね順調。 ○県内一周のサイクリングルート Japan Alps Cycling Road ver1.0は、プロジェクトによる試走、関係者との調整を経てルートが固定された区間への路面表示や案内看板を設置し走行環境の整備を行う。 ○道の駅のサイクルラック等の設置は11箇所（52%）を整備し概ね順調。 ○快適な利用空間確保に向け自転車通行空間を塞ぐ違法駐車を取り締まりを引き続き実施する。 （※）自転車道や自転車専用通行帯、矢羽路面標示等  <b>【今後の対応】</b> ○自転車通行空間の整備について、計画達成に向け、財源の確保を含め一層取り組む。 ○Japan Alps Cycling Roadの詳細ルートについては、Japan Alps Cyclingプロジェクトのメンバーが地域を試走し、長野県の景色や食文化等を満喫できるコースを選定・設定する。	自転車通行空間整備（自転車通行空間の整備延長11.5km） （既存の大規模自転車道のリニューアル5.4km） } 計 約16.9km 長野県1周ルート「Japan Alps Cycling Road」ver1.0の発表		整備の継続・拡大 ※整備目標：180km（100%） （R2）ルート更新に向けた試走 ①松本空港～開田高原 ②開田高原～天龍 ③天龍～伊那		
	6 地域のニーズに応じた駐輪場の整備促進		道の駅のサイクルステーション化（サイクルラック等の配備）52%完了  信州松本空港に自転車の組み立て等ができるサイクルステーションを設置		整備100%完了		
	7 レンタルサイクル・シェアサイクルの普及推進		シェアサイクリング・レンタルサイクルサービス提供エリアで自転車通行空間の整備（安曇野市穂高0.8km、あづみのやまびこ自転車道（リニューアル）1.4km） 信州ナビの経路検索システムと、シェアサイクル予約・決済アプリ「HELLO CYCLING」とのリンクをスタート			整備やサービスの継続・拡大 ※整備目標：180km（100%）（再掲）	
	8 違法駐車取締りの推進		放置車両違反に対する取締の強化（駐車違反取締件数1,162件） 駐車監視員制度の適正な運用（駐車監視員による確認件数852件）			継続・強化	



【長野県自転車活用推進計画 施策進捗状況及び分野別評価】

分野・目標	施策	【総括・今後の対応】	自転車活用推進計画期間					
			R1の実績	R2	R3	R4		
<b>健康増進・環境負荷の低減</b> <b>「人も自然も健康な信州」の実現</b> ○自転車を活用した運動機会を通じて <b>県民の健康づくり</b> を推進するとともに、地球温暖化など <b>環境負荷の低減</b> のために自転車利用への転換を促進します。	9 自転車による健康づくりの推進	<b>【総括】</b> ○自転車の活用促進が、健康増進や環境負荷低減に資するものであるという認識を一定程度共有できた。 ○自然公園の環境を保全しつつ、利用を進めるための検討組織を設置し、地域の実情に応じた検討を開始した。	県と市町村が連携する「健康づくり推進会議」において、自転車を活用した市町村における健康づくりの取り組み事例(松本市「働く若い世代を対象として協力店舗と協働し実施したCycleBIZキャンペーン」)を共有	継続・拡大				
	10 環境負荷の低い交通手段への転換		<b>【今後の対応】</b> ○自転車利用を通じた健康づくりやゼロカーボン推進に向け、通勤等での自転車のさらなる活用について、自転車利用促進施策の優良事例を情報収集するほか、県HPやSNS等、多様な媒体を通じてPRする。 ○県立自然公園におけるMTBと自然環境の共存等について地域の実情に応じた検討を実施する。				県下一斉ノーマイカー通勤ウィーク実施により自転車利用等を推進し、CO2排出量を削減(99事業所、8,286人が参加、CO2排出量53.2t分を削減) 事業者の温暖化防止対策に向けた取組を県が評価する「事業活動温暖化対策計画書制度」の評価項目に「自転車活用促進の取組」を追加	<継続>R2は新型コロナウイルス感染症への対応を考慮 <継続>事業者に対し、温暖化対策の取組の一つとして自転車活用を引き続き促進
	11 自然環境と自転車が共存できる環境の構築		地域の意向を反映した公園管理体制を検討・構築するための「地域会議」を全ての県立自然公園で設置し、MTBと自然環境の共存等についても地域の実情に応じた具体的な検討を開始				自然公園における自転車活用の地域ルールを検討	
<b>観光振興</b> <b>「Japan Alps Cycling」ブランドの構築</b> ○長野県の雄大な景観や起伏に富んだ地形など魅力を活かした <b>サイクルツーリズムを推進</b> します。	12 サイクルツーリズムが楽しめる基盤づくり	<b>【総括】</b> ○官民連携のサイクルツーリズム推進に取り組む団体として、県内63団体が参加する「Japan Alps Cycling プロジェクト」を設立し、関係団体が連携して取り組む体制を整備できた。 ○ブランド構築や情報発信に向けて、Japan Alps Cyclingブランドロゴマークを定め、道路標識等での使用を開始したほかポータルサイトJapan Alps Cyclingを開設した。	官民連携組織「Japan Alps Cyclingプロジェクト」の設立(県内63団体(R2.2時点)がプロジェクトへ参画) ポータルサイト「Japan Alps Cycling」開設 ブランドロゴマーク制作と道路標識等での活用 長野県1周ルート「Japan Alps Cycling Road」ver1.0の発表(※再掲) 自転車通行空間の整備(※再掲) (自転車通行空間の整備延長11.5km) (既存の大規模自転車道のリニューアル5.4km)	継続・拡大 Japan Alps Cycling Roadの案内や魅力を発信できる人材育成(R2)ルート更新に向けた試走(再掲) ①松本空港～開田高原 ②開田高原～天龍 ③天龍～伊那				
	13 サイクルツーリズムの推進によるサービス産業の多様化・高付加価値化		<b>【今後の対応】</b> ○Japan Alps Cycling Roadの試走を実施し、景色や食文化等をより満喫できるコースに更新するとともに、自転車通行空間の整備と合わせ、ブランドロゴマーク入り道路標識等を継続して設置する。 ○Japan Alps Cycling Roadの案内や魅力を発信できる人材を育成し、サイクルツーリズムの気運を高める。 ○ポータルサイト「Japan Alps Cycling」の情報充実を図るとともに、関係団体にブランドロゴマークの利用促進を通じて、Japan Alps Cycling ブランドの認知度向上に努める。 ○with コロナによる観光ニーズの多様化に対応するため、地域で感染防止対策を徹底し、密を回避する自転車を活用した観光振興など新たな観光スタイルの創造に向けて「Withコロナ時代における観光振興方針(仮称)」を策定する。		キックオフイベント「サイクルツーリズムフォーラム」を開催し、全県でのサイクルツーリズム推進に向けた気運醸成を図った(約160人参加)	継続・拡大		
					大糸線における輪行バックの貸出しを実施(23件貸出し R1.7.30-11.30)	継続・拡大		



【Japan Alps Cycling Road ルート案内看板(大町市木崎湖付近)】

【参考：指標】本計画では、目標の達成状況を「見える化」するために定量的な4つの指標を定めています。

指標	実績値(2019年〔R1〕)
自転車事故発生件数 928件(2017年)→780件(2022年) 交通統計(長野県警察)より	<b>772件</b>
自転車通行空間の整備延長 25km(2017年)→180km(2022年) 建設部調べ	<b>40km</b>
道の駅(県管理)のサイクルステーション化率 0%(2017年)→100%(2022年)※全21か所 建設部調べ	<b>52%</b>
自転車活用を政策に取り入れた市町村数 32市町村(2018年)→77市町村(2022年) (安全で快適な自転車利用のための検討連絡会議 事務局調べ)	<b>53市町村</b>

その他参考指標	H30	R1
保険加入率	28.8% (一財)自転車産業振興協会 「自転車保有実態に関する調査報告書」)	53.4% (県政モニターアンケート調査R1.12実施)



【Japan Alps Cycling ブランドのロゴマーク】